

2010.8.05 「開き直りだけで反省のない民主党菅政権」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。

昨日と今日、行われた参議院の予算委員会も先程終了しました。私は、昨日の昼から私は自民党を代表して参議院予算委員会で質問しました。この様子はテレビやインターネットなどでご覧頂けたと思います。今の菅政権はとんでもないというのが私の第一印象です。今回は参議院選挙後、菅政権にとっての初めての予算委員会でした。選挙に負けて、菅総理自身が次の代表選挙で再任されるか分からない為か、非常に自信のない答弁でした。しかしその一方で、民主党が選挙に負けた原因と思われる、マニフェスト違反や国会での強行的な採決の数々、普天間・消費税に代表されるような発言のブレ、それによる国民の政治不信に対する反省はないのです。特に、内閣ナンバー2の仙谷官房長官などもこのことをまったく考えておらず、むしろこの事を指摘されると逆ギレし、強権的な態度で答弁をされました。その一方で彼らは非常に左翼的で、日韓併合や日本の過去の歴史に対する認識も出鱈目です。個人的にはどのように考えていただいても結構ですが、政権与党のナンバー1とナンバー2がこのような出鱈目な歴史認識を持っているようでは、政治家である資格はない、少なくとも政権与党である資格はないと思います。彼らは思い付きの政権運営をしてきて、それに対する反省は全くありません。この政権についての政策を一つひとつ議論するより、ただちにこの実態を国民に知らせて、国民の信を問う、つま

り衆議院の解散総選挙によって政権のそのものを問い直す以外、国を救う方法はないと私は思っています。

しかし、自民党が民主党の受け皿になれるかといえは今のままでは難しいと言わざるを得ません。今回の参院選をうけて、参議院が主戦場となりますので、新しく参議院で執行部を民主的に選び直し、民主党を相手にしっかり戦える体制を作りたいと思います。同時に参議院だけではなく、自民党自身が様々な問題点をかかえています。我々も政策を今一度総点検し、選挙へ向けて、組織のあり方等の内部改革をしっかりしなければなりません。その上で、民主党を1日も早く政権の座から引きずり落とすために、全力で臨まなければならないと思っております。今後もそのような立場でがんばってきたいと思っておりますので、皆様方のご支援をよろしくお願い申し上げます。ありがとうございました。